

記事を読んで、問いに答えなさい。

解答例

2021年9月6日夕刊

障害や難病を患っていても「社会に出たい」「人とつながりを持ちたい」と考える人は少なくない。ロボットを遠隔操作することで、外出が困難な人や寝たきりの人でも働くことを可能にした「分身ロボットカフェDAWN ver.β（ドーンバージョンベータ）」が東京都中央区にオープンした。

カフェを運営するのは、ロボット開発などを行う「オリイ研究所」（同区）。店には研究所が開発した大小20体ほどのロボットがあり、「パイロット」と呼ばれる従業員約50人が自宅などから遠隔操作して、注文を取ったり、接客をしたり、飲み物や食事を運んだりする。中には、客の要望に沿ったコーヒーを入れておもてなしをするパリストアのロボットもある。

店のコンセプトは「全ての人が、社会とつながり続ける選択肢を」。そのため、パイロットとして働くのは、脊髄性筋萎縮症（SMA）や筋ジス

分身ロボット 遠隔操作し接客



ロボットを介してパイロットと談笑する女性客＝東京都中央区の「分身ロボットカフェDAWN ver.β」

難病、障害者らが活躍

トロフィーなどの難病で寝たきりの人、車いすの人、介護が必要な家族がいて外出が難しい人、海外在住の人など多種多様で、年齢層も幅広い。店を利用する際は予約が必要となっている。

三重県川越町に住む柳田幸樹さん(47)は、高校生の時に事故で頸髄を損傷し、首から下がまひ。自宅で過ごす時間が長く、人と話す機会が少なかったが、カフェで働き始めたことで客や同僚と

交流する時間を増やすようになった。「体力的に疲れることもありですが、さまざまな世代の人と会話ができ、元気をもらえますし、充実した時間を過ごせます。従業員ともオンライン上で集

い、悩みを共有したり、励まし合ったりして、仲間がいるありがたさを感じられます」とうれしそうに語った。

店には、障害者雇用の参りにしたいという企業や自治体などの見学も積極的に受け入れており、パイロットが別の企業に就職することも後押ししている。オリイ研究所広報の浜口敬子さんは「障害のある人、難病の人でも社会で活躍できる場を提供したいと考えています。ロボットを使って、新しい世界を開いていきたいです」と話している。

- ①「分身ロボット」はどんなことを可能にするのか。(**（ロボットを遠隔操作することで、）外出が困難な人や寝たきりの人でも働くことを可能にする。**)
- ②記事中で、「分身ロボット」が実際に行っていることを書いてある部分に線を引きなさい。
- ③本文の最後にある、ロボットを使った「新しい世界」とはどのようなものか。記事を参考に、あなたの考えを30字以内で書きなさい(句読点を含む)。

(例) 障害のある人や難病の人でも社会で当たり前活躍できる世界。(29字)
 障害や難病を患っていても社会で人とつながることができる世界。(30字)
 外出が困難な人や寝たきりの人でも働くことが可能な世界。(27字) など

年 組 名前